



日本GAP 11 仙台支部報

IGAP-JAPAN SENDAI INFORMATION

頒価 無料/送料60円(切手可)
 ○編集人：安藤澄雄
 ○発行人：笠原弘可(仙台支部代表)
 申込先 〒980 仙台市東10番丁1
 国鉄アパート1-18

神の子とのふれあい

昨春、夢と希望を胸に抱いた小さな子どもたちと運命的な出会いをして、早くも1年の歳月が流れて過ぎた。この間、子どもたちの純真さ、回復力、こだわりのなさ等に大きな感銘を肌にかけてきた。殊に地球上の習慣には完全に支配されず、われわれ大人の持つことの決してない感受力を見ることができた。一見気まぐれに思える行動が、実は宇宙の意識からのメッセージを素直に表現したものであったりすることがしばしばあった。

10年近くも学び続けてきた宇宙哲学を、この教育の場で実践応用することが私のかねてからの夢でもあったが、このむずかしさを実感させられ、自分の忍耐力の欠乏をイヤというほど思い知らされた1年間でもあった。

頭の中では理想とか金星人の生活のような遠大な精神による教育をいつも思い巡らしていたが、教室に一步足を踏み入れた途端、自分の思い通りのプログラムが運ばなかったりと、体内から怒りの想念が泉のごとくにわき起こって、説教が始まったりする。説教をしながらも「こんなんではいけないんだ」と反省しながらも、自分がアダムスキーか久保田先生になったつもりで大勢の子ども達の前で演説をぶって、自己満足していたのだと深く反省している。

子どもたちを生かし続けてい

「たいよう」の連載を終えて…

仙台市 安藤澄雄

「やまぐちい〜、あそんでくれよ〜！」これが教師に発せられる言葉だと、私にはとても信じられない。私のかわいらし

いよいよ最終回！ トップでラストを飾ります！



る宇宙の意識がどの子にも宿っていて、毎日どんどん成長させ、はちきれんばかりのパワーを子どもたちに注ぎこんでいる。彼らはそのチルドレン・パワーを放出したくてたまらず、動き回りたくてしょうがない。おしゃべりしたくてしょうがないのだ。チャイムとともに教室を飛び出し、メチャクチャ遊んで、チャイムとともに決して帰ってはこない。すべての子どもたちが神の子であり、今、私とともに肌を触れ合えるほどに接近して、そばにいるのだ！ 私は神の子の面前にいるのだ！

こんなふうにながら年中思えて、私の心の中に余裕があれば素晴らしいのになあ〜と、夜自分の寝ぐらに帰っては、一日を振り返り、「あすこそは」と思ったりする。

子どもをもっと知るべきだ

どんな人でもたいいおかあちゃんのおなかの中からウブ声をあけて生まれ、地球の大気を吸って、母なる地球の恩恵に浴び小学1年時代には、先生とは女神でこそあれ(女の先生でした)決して犬のポチではなかった。だから先生と何かして遊ぶというのはせいぜいおゆうきであって、決してプロレスごっこだとかガンダムごっこではなかったのだ。先生とは(男女を問わず)コワイ存在だったのだ。なのに山口先生とこの子供

して成長してくる。宇宙の意識の愛ある導きに万人が対象となっている。それにもかかわらず、子どもたちは多くのものにおびえ、震えて生きることに苦痛を感じたり、放棄したりすることさえある。

1年間の教師生活を通して、私はやはり大人のパターン化された狭い考えを押しつけて、子どもの特権である“自由な、宇宙的な表現”を規制してきたのではないだろうか、と胸を痛めるのである。子どもは大人を全面的に頼っているだけに、大人は子どもという純白な紙の上には無造作に落書きをしてはならないのだ。まず子どもをしっかり見て、子どもたちの表現を理解してみたい。子どもたちを私がしがかり飛ばす以上に、彼らは私のいい加減さを私に教えてくれたし、増してや、私が彼らに給料を支払いたいくらい、彼らは私に貴重な宇宙的な片われをたくさんプレゼントしてくれたのである。

最後に、私のクラスの一少女が1年生の最後の日に、私あて達ときたら、大声で怒鳴られると「こわいもーん」と答えたのだ。実にけしからん！

けしからんのは子供達ばかりではない。この前、山口先生の教室を見せてもらった。1年生5クラスのうち、一番乱雑なのですくわかった。第一先生の机の上が最も乱れていた。あれで子供に「きれいにしろ」と言

に書いてくれた作文を紹介してこのシリーズを閉じたいと思う。この作文を読みながら、涙を落とし、この子に教われた思いがしたのである。私のダペリを忍耐強くも連載してくれた安藤澄雄氏には感謝してもし尽くせないことはないが、とにかく感謝したい。

—先生、いつもどうもありがとうございます。一年かん、ずっとめんどろ見てくれたり、あそんでくれたり、べんきょうをおしえてくれたり、いろんなうれしいことや、かなしいことや、いつもいつもありがとうございます。たのしいところをもちこんで、むねをいっはいひろげて山口先生をたいいおかあちゃんを。一年五くみのみんなは、山口みどり先生のことをいちばんすきなのに、わかれるなんてさみしいです。

(この子は2年になったら、別の先生になると思ったのでしょう。—著者注)

安藤君、ケッコンおめでと。先を越されたね！おしあわせに。

うほうが無理である。作文も見せてもらった。色鉛筆で描いた表紙もついていた。「…!!!」何て自由で見事な表現だろう。これが1年生の手によるものとは思えぬほど素晴らしい。自由そのものだ！この子供達は今年も山口先生のクラスになった。私はちょっぴり彼らがうらやましい。

本年3月5日の東京本部月例会における体験講演より (一部省略・加筆訂正有り)

我レ天界ニアリテ

仙台支部代表
笠原弘可

素直に正直に

想念の観察を実行していますと、少しずつ精神が向上して行くのがわかります。これを始めた当初は、それこそ細大もらさず手帳につけようと意気込みます。自分の未熟さを自覚している時期ですから懸命に精神向上を目指します。しかし年数を経るにつれ、だんだん適当になってきます。「まあ、オレもこれくらい長くGAPにいてアダムスキー氏の本を読んだり聞いたり、久保田会長の言葉を讀んだり聞いたり、あるいは仲間たちと語り合ったりして、みんな自分のことを悪くは思っていないようだし、なかなかいい線いってるんじゃないかな」なんて気分にもなりがちです。そして自分はかなり高貴な精神を持っていると漠然と信じたりします。新入会員にたいして「ザ(The)先輩、といった顔で「教え諭そう、としたりします。

ある時、初心に戻って自己を観察すると、驚くほどのエゴに気づきます。それでもマインドは我を張ります。「オレがこんな想念を起こすはずないじゃないか。宇宙の人間を目指して長年生きてきた、このオレが」と瞬間的に自分の想念から目をそむけます。これでは何にもなりません。心を素直に正直に見つめる訓練をしなければ、テレパシーの開発も精神の向上も望めません。

我々は地球に住む人間です。どんな低劣な想念が起ころうと不思議ではありません。同時に我々は宇宙に住む人間でもあります。どんな高貴な想念が起こっても不思議ではないのです。ゆがめたり、目をそむけたりすることなく、自分を見つめていきたいものです。良くない想念

が起これば起きたで、精神向上の資料を与えられたくらいに思っただけで検討すればいいでしょう。想念を恐れたり、執着したりするのが一番悪いと思います。

執着しない

それから先程申しましたように、人間は理論的にはどんな想念でも受け取れますし、自ら起こすこともできますから、人によってはひんぱんにテレパシーや啓示を受ける場合もあるでしょう。様々なことを見抜いて自分のために役立てたり、さらに他人にアドバイスできる人がいます。GAP内にもいらっしゃいます。

しかし注意すべきは、印象に執着しすぎないことだと思います。アダムスキー氏でさえ自己の印象をブラザーズに確認していたそうです。印象に従って生きなさいという教えと矛盾するようですが、決してそうではないと思います。印象に注意を払いつつ、印象にたいして謙虚であるべきだと思うのです。真に相手を見抜き、相手を向上させ得る程発達した人は、印象に執着したり、他人に押しつけたりはしないものです。

自ら宇宙的想念を

今年に入ってから私が特に肝に銘じていることがあります。それは「宇宙的想念、を少しでも余計に放とう、ということなんです。これはGAP会員の方々にしてみれば、ごくあたりまえのことのように思われるでしょうが、それでいて結構忘れがちなことでもあるように思えます。宇宙的想念を自ら積極的に持つことは、良い印象を自分に引きつける効果があります。これはアダムスキー氏が「テレパシ

ー」の中の「自分でためせ」という項目で述べています。

想念観察によって細胞を解放し、さらに宇宙的想念を起こし、宇宙的啓示の呼び水にする。そうすれば、どっどっばかりに良い印象・想念が流れ入ってくるはずですよ。こう口で言いますと非常に簡単ですが、実際は言っている私もそう容易にはいきません。

時折、うまくいって非常に高揚することもあります。いきのいい想念がどンドンわきます。そのまま平静にその状態を見つめていけばよいのですが、私の心はすぐ騒ぎます。喜び浮かれてしまうのかもしれない。するとその高揚感は去っていきます。この時風が吹けば「風と共に去りぬ」ということになりま……冗談です。

ともかく、宇宙的想念を、気づいたときに数多く起こすというのには必ず効果があります。

宇宙的想念を自ら放つといいますが、これは「よし、オレはやれるぞ！」でも「みんなと一体。宇宙と一体」でもいいと思えます。それを繰り返せばミラクルワードということになります。

あまり難しく考えずに、自分の心を前向きに明るく、あるいはゆったりとさわやかにするような想念を積極的に持つといいと思っています。

GAPは家族

精神的な成長を図る場合、だれしも修養の方法というものをお考えます。

ある人は手帳などに書きつけた言葉をしょっちゅう読むことで心が落ちつき、明るくなるでしょう。ある人は自分なりのミラクルワードを唱えるといいかもありません。

人間一人一人個性があります。自分なりの方法を見出すべきだとアダムスキー氏も言っています。他人(ひと)がやってすぐく効果のあった方法が、自分には全然役に立たないこともありま……、その逆もあるでしょう。そういう意味でも色々な人と意見を交換するのは大切です。時折ふと思うのですが、もし、アダムスキー氏の書物だけでたった一人研究し続けていたら、私などは変な方向に行ったのではないか。GAPという集まりがあって、会長はじめ数多くの人と接して教えていただいたり意見の交換をして、何とか今に至ったような気がするのです。もちろんアダムスキー氏の哲学書は他に類を見ない宇宙的な内容です。しかし私などは最初これを最高の指導書だと信じながらも、いったいどうやって実践して行けばよいのか全くわからず、手さくり状態でした。書物を熟読するとともに、同じ研究をする人々と交流することによって理解が深まっていくよう

私たちにとって社会とは、自分がどれだけのものをマスターしているかを試される試験場でもあり、欠くことのできないものです。それは時に厳しすぎるように感じられますが、東京の月例会に出席するたびに生まれ変わったような気がして、社会人としてまたがんばる元気がわいてきます。会場にいると本当の兄弟姉妹と共にいる心構えになります。その意味で、会長の言われる「GAPは家族である」という言葉が大変気に入っています。

私のような者と兄弟になるのはいやだという方もいらっしゃると思いますが、そういうながらも体形上非常に似ている方もあります。(一同笑) そういう方

は是非「日本人体形保存会」にお入り下さい。(一同笑)

笑いはパワー

私が一番気をつけていることの一つに「明るさ」があります。最近、ネクラ(根暗)という言葉がはやっています。「根が暗い」という意味だそうですが、本当に根から暗い人はそんなにいないでしょう。しかし笑って損をすることって顔で街を歩いている方を時折見ることがあります。

はしが転げても笑う年ごろとありますがあります。特に女性にあるようです。年若い人から見れば、コロコロと転げるように笑う彼女らが、少しバカらしく見えたり、うるさく見えたりします。ところが、あの笑いは宇宙的パワーが本格的にわき起こっている証拠であると思うのです。明るく笑える若い人々は素直に成長しているという見方もできると思います。ゆがんで変な方向に行き始めると人間は素直には笑えなくなるものです。

前にいた駅で改札口に立っていた時です。私もまだ紅顔かれない美少年でした。(笑)女子高校生がキヤッキヤッと笑いさざめきながら集団で改札口に来るわけですが、そうするところ、パッと目をふせて——あのころは非常に純情でした。本当はそうではないのですが、なぜか自分が笑われているような気がして、騒がしく、あるいはうとましくさえ思ったのを記憶しています。もてない男のひがみもあったかもしれませんが。

ある日、なぜか良きフィーリングのわくときがありました。その日は変な思い入れがなく女の子たちが直視できたのです。いつもは変に目につき、耳にさわる彼女らの笑い顔、笑い声も不思議に快く感じました。加えて、ある印象が起きました。「娘たちよ、笑うがいい、はしゃぐがいい。あるがままに、わき起こるがままに」というフィーリングでした。そのとき初め

て理解できたのです。彼女らは非常にパワーが強まってきているのだと。そして、このまま素直に成長してくれるといいなと思いました。

私は難問が来れば来る程、ニマリ笑おうと思います。「お、来たか。待ってたぞ」という具合に、にっこりしようと思えます。別に難行苦行を求めつもりはさらさらありません。それでも、地球に生まれて日本に住む私たちは、何らかの問題なり壁なりに出くわさざるを得ないでしょう。そんな時は私にはにっこり笑おうと思います。私たちは、永遠に続く宇宙に生きています。その宇宙を創造した宇宙の意識によって生かされています。そして、意識と一体化したスペース・ブラザーズが見守ってくれます。

愛は惜しみなく

冒頭で述べましたように、今年に入ってなぜか非常に良き印象がわくようになりました。ブラザーズが、その祝福の想念をより強めておられるのか、またはそういう時期なのかわかりませんが、あるいは私が珍しく成長したのか、はたまた、珍しくなく感懐しているのか、これもわかりません。

今私が思っているのは、このわいてくるものをそのまま放射してみようということです。今まではあまりに考えすぎて、素直にパワーを循環させていなかったように思うからです。そのまま放射するというのは決して「こういうような印象がわいたよ」と他人にしゃべりまくることではありません。その「感じ」をそのまま外部に放つということです。いい感じがわいて、それを素直に放射していけば、より一層大きなものがわいてくるのではないかと思います。それゆえ、愛は惜しみなく与えるべきです。金や物ではなく、久保田会長の言われる通り、万物万人を祝福する想念が大事だと思えます。

この「素直にそのまま放射する」ということに関連して気づいたことがあります。それは、良き想念は思い切って放て、ということですよ。

私は以前、良き想念を唱えながらも「こんな想念でいいのだろうか」とか「本当にこうまくいくのかな」といった、いわばブレーキをかけながらアクセルを踏むようなやり方をしていた時があります。意識してそうしていたのではなく、知らず知らずのうちに雑念を入れていたのです。これでは折角の想念も効果がありません。少なくともその時は引っかけりをなくして思い切り想念を放つべきです。

スポーツ界でも似たようなところがあります。野球のピッチャーは練習では色々自分自身をチェックしてより良い投球を目指します。しかし、いざ試合となると、身についたものを信じて、思い切った投球をします。思い切るといのは決して「力む」ことではありません。むしろ、信じ切った、すっきりした気分というふうに言ったほうがいかもかもしれません。この時、「ああ、打たれるかも知れない」とか「負けたらどうしよう」とか「ちゃんと投げられるかな」などという不安があったらきくと本当にダメなピッチングになってしまうでしょう。自信を持って、思い切って投げてこそ、本来の力が発揮されます。

一人じゃない!

きょうの演題を「我れ天界にありて」とつけたのには、少し理由があります。

確か20歳になる前だったと思います。色々なことで悩んでいた一時期がありました。重い足どりで街を歩いていました。くよくよとした想いが心を支配していました。その時突然ある言葉が心に浮かんだのです。「我れ天界にありて、他に家なし、我があるは我が家なり」という言葉でした。実際にこうした漢文調でわき起こったのが今でも

不思議に思います。

「そうなんだ。自分は宇宙にいて、宇宙に生かされているんだ。どこもかしこもその力に満ちている。ここ、自分の今歩いているここでさえ自分の家に他ならないんだ」——こう思った途端にパッと心が晴れたのをハッキリ覚えています。

私はつまらぬことで何度も悩みました。そのたびに、こうした「言葉」で救われたり、たくさんの人の助言に目を見開かされました。今でも忘れられないことがあります。もう10年前になるでしょう。苦しい思いを手紙にして久保田会長へ送ったところ、次のような激励のご返事をいただきました。「どんな事態であろうと、私とGAPのメンバーはあなたの味方です。元気を出して、がんばって下さい」——私は涙があふれて止まりませんでした。そして、再度勇気がわいてきました。

人間は一人で生まれてきて、一人で死んでいきます。これは動かせない事実です。しかし私たちはその奥底で意識ということも知っています。もともと一つのものから出たからこそ、ある人の考えを他人が理解することができるのです。

不幸にも地球人は、人間一人一人は別のものから生まれ、分離しているのだという錯覚に陥りました。その錯覚は根強く、われわれを時折揺さぶります。人間は本来一つ、宇宙は一つ、ということをおぼろげにする私たちには住みにくい世の中であるかもしれません。

ここに若い後輩たちを導き、激励し続ける久保田会長のもとに「日本GAP」があります。アダムスキー氏は、人間は一人ぼっちではないことを教えてくれました。そして私たちにはこんなに素晴らしい仲間がいます。私でもできる限りの努力を続けていくつもりです。今後とも、互いに激励し合いながら、共にがんばっていきましょう!

ホプリ

宇都宮市
菊地啓子

ガラスの小びんの中に
カラカラにわいた花びらが
ひっそりと ねむっています
ラベンダーの花と 干した
レモンの皮と オレンジの皮を
いっしょに入れて
私だけの
思い出のホプリをつくります
甘く、精いっぱい すっぱい
そして
思いきり青い思い出を

ゆく季節。花びらは散り、葉も
色を変え、やがて大地へと落ち
てゆきます。
はっとするほど空が大きく広く
見えます。
夏のなごりの花びらを、やさし
くほぐして、陰干しします。
色が変わらない様にゆっくりと。
街で見かけたしやれたピン、空
になった化粧ピン、チョコレート
やアメの入った小ビンも、私
だけの小さな思い出を、そっと
しまいきむのにはいいのです。

過去をつくらなくて生きてゆく
ことができないのなら、
良い過去(むかし)をつくろう。
未来のある日、ふと思い出した
とき、ひととき思い出にひたれ
るむかしをつくろう。

花は秋になりやがて冬になると
大地にかえり、
その姿は消えてしまいます。

未来に夢を持っている人、
夢をあきらめ、いのちを枯らし
てはいけなわ。
たとえこの世での肉体はしいだ
に考えてゆこうとも、
胸にいただいた無限の夢は、
別のかたちで大きくはばたくで
しょう。
この世の人々の目には、
つまらなく映っても。

春になれば緑があふれ、色とり
どりの花々が咲き出す。
夏ともなればこの世の生命を一
生けんめいに表現していく花を
見れば、たおらしくなる。部屋
にかざってうっとりしたい。
でも、思うのです。花はその
地で咲いてこそ美しいのだと。
花びんに生けた花は、二次的な
美しさになるのだ——と。
やがて、涼しい風がふきぬけて

いつ、どんなときでも、小びん
をのぞきこむたび、あのときの
道、あのときの空の色、人々の
ざわめきがよみがえります。
ほんのり香るラベンダー、ジャ
スミン、シナモン、グローブ、
あらゆる香料と花びらの香り。
ああ、そうだった、あんなことも
言ったわ、あんな顔もしたわね、
うれしかった、さびしかった。

夏の色を残した花びらが
乾いた音をたてながら
小びんに 入ってゆきます
思い出と 夢 希望 という
香料をいっしょに入れて
ふたをしたら
リボンを むすびます
これで できあがり

草原 XXX しめきり間際のある雑想 XXX 笠原弘可

文章を書くのは好きな方だ。読むのも好きな方だ。以前は、時間が売れる程あった。今は買いたい程ない。それは職場が変わったせいである。とびきり忙しい所へ駆動した。書くことも読むことも時間的に困難になった。現にこうして「草原」を書いているのではないか、と言われそうだ。しかし、これは手洗いや風呂といった機会に考え、朝食を摂りながらペンを走らせているのだ。それで今回は、香り高く湯気に煙るようなおいしい文章になっているはずである。左手にフォーク、右手にペンのこの姿を見たら私の想像を絶する忙しさを理解していただけるに違いない／のんびり屋の私だから余計に感じるのだろう。風というか地獄のような目まぐるしさは過ぎた。「ここを過ぎれば左団扇だ」という先輩の言葉をようやく信じられる気分になった。これも一つの経験ではある／日本人が勤勉なことは世界的にも知られている。だからこそこの小国が経済大国と言われる程になったのだ。隣を見て、わいてくるような仕事に没頭する先輩達は確かに活気があって頼もしい。遅くまで残業しても不平一つ言わない姿も力強い。しかし、それだけでいいのか、と思いたくなる。彼らの話題は仕事であり、出世である。尊敬すべきは「〇長」と名のつく人物である。もちろんどんな仕事でも少なからず他人に役立っている。私も極力意識のパワーが奉仕のために我が肉体を使用している、と思いつつ仕事に向かっている。それでも根が怠慢な私には、6日間働きづめに働いて日曜日は寝て暮らすといった生活は、とてもできそうにない／澄雄君、博子さん、オメテトウ。

※※※※※お知らせ※※※※※

第4回日本GAP

発表・基幹 合同支部大会

今年も下記の日程で東北から力強い宇宙の想念を放射します。夏に向かって腕を広げる米沢の深緑と一体化し、新鮮さを持ち帰ってみませんか？

……記……

日時/5月22日(日)
10時30分～17時
会場/置賜(おいたま)総合文化センター(山形県米沢市金池三丁目1-14)
☎(0238) 21-6111
会費/2000円 記念写真 700円
内容/8ミリ記録映画「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」、会員講演(漆山晃治・伊藤陸史)、会長講演「宇宙の法則の生かし方」、質疑応答、他。

歓迎夕食会!!

♡ 清水正さん、敏恵さん♡
ご結婚おめでとうパーティー

大会終了後、21日にご結婚なさるお二人のお祝いをかねて夕食会を開きます。ふるってご参加下さい。(希望者のみ)

時間/18時～20時、会場/ホテルサンルート米沢、会費/5000円
【宿泊】ホテルサンルート米沢(山形県米沢市門東町3-3-1、☎0238-21-3211)をお世話いたします。

※夕食会ご出席・ご宿泊をご希望の方は、宿泊日等を明記の上、**5月15日まで**ハガキで下記へお申し込み下さい。(会場ご案内図もご用意しております)

◎申込先/〒992 山形県米沢市松が野2丁目4-31 清水正

結婚おめでとう

~~~~~編集後記~~~~~

◎2か月ぶりの支部報は、増ページでお届けします。繊細な原稿をお寄せいただいた菊地啓子さん、ありがとうございます。また、山口緑さん、長い間ご苦勞様でした。  
◎来月はいよいよ山形・仙台合同支部大会です。両支部役員一同、皆様のお越しを心からお待ちしております。  
◎ご感想をお寄せ下さい。(A)